

宮崎県屋外型センターの指定管理候補者の選定について

宮崎県商工観光労働部スポーツランド推進課

1 施設の概要

| | | | |
|-----------|--|---------|----------------|
| 施設の名称 | 宮崎県屋外型トレーニングセンター | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市山崎町浜山 415 番 87 | | |
| 設置年月日 | 令和 5 年 4 月 1 日 | 供用開始年月日 | 令和 5 年 4 月 1 日 |
| 設置目的 | 県の重点施策である「スポーツランドみやざき」の更なる推進に向け、ラグビー、サッカー、陸上競技等の国内外のトップアスリート等の合宿拠点とするとともに、県内アスリートの競技力向上や、キャンプ誘致による観光の振興・経済の活性化を目的とする。 | | |
| 施設概要 | 敷地面積：65,398.65 m ² 建築面積：3731.33 m ² 主な施設 《ラグビー・サッカーグラウンド》 天然芝、照明、防球ネット、AI カメラ等 《多目的グラウンド》 ハイブリッド芝、照明、400m トラック等 《屋内練習場》 人工芝、照明、防球ネット等 《クラブハウス》 ジムエリア（トレーニングルーム）、ミーティングルーム、ロッカールーム、シャワールーム、アイスバスエリア、トイレ等 《その他》 クロスカントリーコース、観覧者用トイレ、管理棟、メンテナンス車庫、用具倉庫、駐車場等 | | |
| 主な施設利用状況 | 利用実績 令和 5 年度 30,638 人（内県民利用：21,345 人） 令和 6 年度 27,363 人（内県民利用：14,164 人） | | |
| 現在の管理運営方法 | シーホース宮崎※が指定管理者として管理運営を行っている。 ※代表構成員：株式会社馬原造園建設 構成員：フェニックスリゾート株式会社、株式会社MR Tアド | | |

2 指定管理者公募の概要

| | |
|----------------|--|
| 募集期間 | 令和7年7月7日～9月8日 |
| 指定管理者が行う業務の概要 | ① 施設の利用に関する業務（利用の受付・許可、料金設定 など） ② 施設の維持及び保全に関する業務（建築物保守管理、グラウンド保守管理 など） ③ その他管理運営に必要な業務（大会・合宿運営補助、自主事業の実施 など） |
| 施設の管理運営の基本方針 | 県の重点施策である「スポーツランドみやぎ」の更なる推進に向け、ラグビー、サッカー、陸上競技等の国内外のトップアスリート等の合宿拠点とするとともに、県内アスリートの競技力向上や、キャンプ誘致による観光の振興・経済の活性化を実現するための施設の管理運営を行う。 |
| 指定管理者の選定基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の平等な利用が確保されること ・ 施設の効用を最大限に発揮するとともに、管理経費の縮減が図られること ・ 事業計画書の内容を確実に実施するために必要な経理的基礎及び管理能力を有していること |
| 指定期間 | 令和8年4月1日～令和13年3月31日（5年間） |
| 指定管理料基準価格（上限額） | 年額52,663千円（5年間で263,315千円） |

3 審査方法等

| | |
|-------|---|
| 審査の流れ | （書類審査） ・ 提出された申請書等について、県が募集要領に示した資格要件の適否を審査する。 |
| | （指定管理候補者選定委員会による審査） ・ 外部委員のみで構成する指定管理候補者選定委員会を開催する。選定委員会では、書類審査を通過した応募者を対象に、各応募者のプレゼンテーション及びヒアリングを行い、審査を実施する。 |
| | （指定管理候補者選定会議による確認） ・ 県の施設所管部局等で構成する指定管理候補者選定会議を開催する。選定会議では、指定管理候補者選定委員会の審査結果を、施設所管課において選定基準等に基づき評価した結果と照らし合わせ、確認を行う。 |
| | ※指定管理候補者選定会議の確認後、県が指定管理候補者を選定する。 |

| | | |
|------------------------|-----|-----------------------------|
| 指定管理候補者 選定委員会 委員 | 委員長 | 杉山 智行（宮崎大学地域資源創成学部教授） |
| | 委員 | 矢野 将大（宮崎市スポーツランド推進課長） |
| | | 石田 喜克（公益財団法人宮崎県スポーツ協会理事） |
| | | 松山 茂（一般社団法人宮崎県商工会議所連合会事務局長） |
| | | 中村 景子（公認会計士） |
| 指定管理候補者 選定会議 委員 | 議長 | 商工観光労働部長 |
| | 副議長 | 観光経済交流局長 |
| | 委員 | 商工政策課長 |
| | | 観光推進課長 |
| | | スポーツランド推進課長 |
| | | 行政改革推進室長 |

| 審査項目・配点 | 選定基準 | 審査項目 | 配点 |
|---------|--|---|-----|
| | ①住民の 平等な利 用の確保 | 施設運営に関する基本方針 | 10 |
| | | 県が示した管理の基準に対する理解及び対応 | |
| | | 住民の平等な利用の確保に関する提案 | |
| | ②公の施 設の効用 を最大限 に発揮す る事業計 画 | 利用者サービスの向上及び利用者増への取組に對 する提案 | 35 |
| | | 利用者満足度把握や苦情・要望対応、運営改善へ の反映 | |
| | | 施設の設置目的の理解と課題の認識 | |
| | | 指定管理者の業務に対する意欲 | |
| | | 施設等の維持管理の適格性 | |
| | | 利用者満足度把握や苦情・要望対応、運営改善へ の反映 | |
| | | プロスポーツ・トップアスリートのキャンプ等の 受入についての提案 | |
| | ③経費の 縮減等 | 指定期間内に県が支払う指定管理料の提案額 | 10 |
| | | 業務遂行のための適切な経費の積算 | |
| | | 管理業務の効率化と経費の縮減に関する考え方・ 提案 | |
| | ④事業計 画を着実 に実施す るための 管理運営 能力 | 必要な体制の確保（適正な組織、人員配置、責任 体制） | 30 |
| | | 職員の能力育成（研修体制） | |
| | | 継続的に安定した運営が可能な財政的基盤（経営 状況） | |
| | | 過去の類似事業の実績、評価 | |
| | | 事業計画及び収支計画の具体性、適格性、実現可 能性 | |
| | | 競技団体や関係機関との連携の確保 | |
| | | 個人情報保護への対応、情報公開への対応 | |
| | | 事故・災害等への対応（安全管理、危機管理体制 の確立） | |
| | ⑤地域へ の貢献等 | 地域資源を活用した運営及び地域経済・観光に資 する運営 | 15 |
| | | 地域の住民や県内のスポーツ団体、福祉団体など の関係団体等との連携・交流 | |
| | | 障がい者や更生者の就労支援への対応 | |
| | | 環境保全への取組 | |
| | 合 計 | | 100 |

4 審査結果等

| | | |
|----------|---------|--|
| 申請者（応募者） | | <ul style="list-style-type: none"> ・シーホース宮崎 <p>代表構成員：株式会社馬原造園建設</p> <p>構成員：フェニックスリゾート株式会社</p> <p>株式会社MR Tアド</p> |
| 審査結果 | | <ul style="list-style-type: none"> ・書類審査を行った結果、全ての申請者（上記３者）が資格要件を満たしていると認められた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理候補者選定委員会を令和７年１０月１日に開催し、書類審査を通過した３者のプレゼンテーション及びヒアリングを実施し、審査を行った。 <p>審査結果は次のとおり。</p> <p>１位：４４２点（シーホース宮崎）</p> <p>最低基準点（委員合計５００点満点の６割（３００点））以上である</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理候補者選定会議を令和７年１０月８日に開催し、選定委員会の審査結果を、施設所管課において選定基準等に基づき評価した結果と照らし合わせ、確認を行った。 <p>選定会議の確認結果は次のとおりであり、選定委員会の審査結果と相違がないことを確認した。</p> <p>１位：８４点（株式会社 シーホース宮崎）</p> <p>最低基準点（満点の６割（６０点））以上である</p> |
| 選定結果 | 指定管理候補者 | <p>シーホース宮崎</p> <p>代表構成員：株式会社馬原造園建設</p> <p>構成員：フェニックスリゾート株式会社</p> <p>株式会社MR Tアド</p> |
| | 選定理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・選定委員会の審査及び選定会議の確認の結果、最低基準点を満たす得点を得たこと。 ・県や市の指定管理者としての実績やプロスポーツキャンプの受入実績等を踏まえた事業計画等から判断して、施設の管理運営を適切かつ着実に実施する能力を有していると認められること。 ・ドローンの活用など、利用者満足度向上のための新たな取り組みが提示されていること。 ・３社の長所を活かし、相乗効果を図ることで、効率的かつ効果的な施設運営が期待できること。 |